

令和5年度 八重山商工高等学校評価(自己評価・学校関係者評価)

1 学校の教育目標

- ① 専門的な知識、技術及び技能を習得させ、産業界とグローバル社会で活躍する生徒を育成し、保護者や地域に信頼される学校教育の実践。
- ② 豊かな人間性と創造性の伸張を図り、心身共に健康で、社会を生き抜くための「基礎力」「思考力」「実践力」を備えた生徒の育成。
- ③ 教育公務員としての法令遵守とワーク・ライフ・バランスを意識した働き方で学校教育の質の向上

2 本年度の具体的取組

- ①教育環境の整備 ②進路指導・キャリア教育の充実 ③生徒指導の充実 ④授業の工夫改善 ⑤悉皆研修・自主研修の取組 ⑥外部組織との連携
- ⑦業務の効率化(思い込み業務の洗い出し) ⑧感染症対策と健康の保持増進 ⑨適正な事務処理 ⑩愛校心の醸成 ⑪PTA・地域との連携 ⑫定員割れ解消 ⑬部活動改革

3 職員による自己評価(令和5年度での改善及び成果)

評価基準 A:とてもそう思う B:そう思う C:そう思わない D:とても思わない			令和4年度の課題	課題に対する令和5年度での改善及び成果	学校関係者評価(平均)
評価項目	具体的目標	具体的方策			
教育目標	教育目標の実践	① 学校は教育目標を意識して教育活動計画を立てている。	次年度の課題として、職員の教育目標を意識した教育実践があげられる。	今年度は、教育目標の全項目の昨年度と比べて上がっていることから、課題の改善が図られたと考えられる。	A
	教育実践の充実	② 職員は教育目標を意識して教育実践している。			
	教育目標の周知徹底	③ 教育目標は生徒や保護者に周知されている。			
教育計画	実態に即した教育計画	① 生徒の実態に即した教育計画を編成している。	次年度の課題として、ICT等を活用した生徒個々に応じた教育実践があげられる	今年度は、教育計画の全項目が昨年度に比べて上がっているが、生徒・保護者からはより、オンラインなどを活用したICT教育への取組みが引き続き課題である。	A
	生徒の個性伸張	② 生徒個々を伸ばす教育実践をしている。			
	教育改革の改善	③ 学校評価を実施し、教育計画の改善を図っている。			
学校運営	生徒の学力向上支援	① 生徒個々を伸ばす教育実践をしている。	次年度の課題として、地域連携の教育計画への位置づけがあげられる。	今年度は、学校運営・組織の全項目が昨年度より上がっていることから地域連携が図られたと考えられる	A
	学校の組織運営	② 各分掌が協力・連携した学校運営がなされている。			
	家庭地域との連携	③ 家庭・地域と連携した学校運営が実施されている			
教科(学習)指導	家庭学習の習慣化	① 生徒の実態を踏まえた分かる授業・参加する授業が実践され、資格取得や特別活動に力を入れている。	次年度の課題として、アプリを活用した学習活動の日常化に取り組めることがあげられる	授業の指導や、参加する授業は良くなっているが、ICTを活用した授業は今年度も課題として挙がっている。	A
	学力の向上と目標達成	② タブレットやパソコンを活用したICT教育に力を入れている。			
特別活動	生徒会活動の充実	① 委員会活動を活発に行い、生徒が主体的に学校行事等に取り組むよう、指導されている。	次年度の課題として、部活動顧問の負担軽減が挙げられる。	今年度は、特別活動の全項目が上がっていることから、部活動顧問の負担軽減が図られていることが推測される。	A
	部活動の活性化	② 部活を奨励し、学校生活を充実させる指導がされている。			
生徒指導	健全な生徒の育成	① 定期的な身なり指導・勤怠指導を通し、生活の乱れを未然に防ぐ指導がなされている。	次年度の課題として、勤怠指導の改善や染髪指導や身なり指導の強化があげられる。	生徒の身なり指導やアルバイトなど、保護者・地域と連携した取組は評価されている。	A
	交通安全・事故防止	② 保護者・地域と連携した交通安全指導を行い、交通事故の防止に努める。			
進路指導	PTA進路学習会の実施	① 生徒の自己実現に向けて計画的、継続的、系統的な進路学習がなされている。	次年度の課題として、継続的な全職員による進路指導の充実、就職指導の強化があげられる	今年度は、ほぼ全項目が向上していることから、進路指導の充実が図られたことが推測される。	B
	キャリア教育の外部連携	② 生徒の自己実現に向けてインターンシップや企業連携等、生徒の社会参画に計画的継続的系統的な進路学習がなされている。			
	進学・就職指導の充実	③ 進路ガイダンスの実施やPTA進路対策委員会による学習会等が実施されている。			
健康・安全指導	健康意識の向上	① 健康な生活習慣の確立とその意識の高揚に努めている。	次年度の課題として、SCやSSWなどの外部との連携の充実を図り、アウトリーチの確立があげられる	今年度は、僅差ではあるが、全項目の評価が下がっている。今後も、SCやSSWなど、外部(アウトリーチ)の取組を継続していく。	A
	いじめのない学校づくり	② 全職員でいじめの未然防止・早期発見に努め、いじめが発覚した場合にはいじめ防止対策委員会を中心に適切に対応している。			
	危機管理体制の充実	③ PTA及び外部団体や地域と連携した危機管理体制を整備し、各種点検を行っている。			
環境美化	清掃活動の徹底・緑化計画	① 生徒の主体的な清掃・美化活動の指導を十分行い、学校緑化が計画的になされている。	次年度の課題として、継続した緑化計画の促進があげられる。	今年度は、全項目が上がっていることから、継続した緑化活動に取り組んでいることが推測される。	A
	施設・設備	② 生徒のゴミを捨てない・汚さない・ゴミ分別、公共物を大切にす態度が育成され、学習活動を保障する施設や設備が整っている。			
家庭地域連携	ニーズに応えた教育活動	① 学校の教育活動が、保護者・地域に説明されている。	次年度の課題として、メールサービスの加入率の向上(100%)を目指す。	今年度も学校行事や部活動の活躍などによる、HPの更新やInstagram(商業科)による情報発信を活発に行うことができた。メールサービスの運用により、保護者に必要な情報の発信を継続して取り組んでいく。	B
	保護者・地域との連携と連携した教育活動	② 保護者・地域の要望を生かした教育活動が行われている。			
	保護者・地域との連携した学校づくり	③ 学校行事への参加や、授業参観等で開かれた学校づくりがなされている。			
長欠者(中途退学対策)・家庭学習支援	中退者をなくす取組	① 全職員が連携し、組織的に長欠者への指導・支援を図り、中退対策に取り組んでいる。	次年度の課題として、就学継続支援員配置事業とより充実した連携を図ることがあげられる。	今年度も、教育相談係、養護教諭、スクールカウンセラー、HR担任に加え、就学継続支援員と連携し取り組みを行うことができた。	A
	全員進級及び卒業	② 補習・補充を行い、全員進級・卒業を目指した指導を行う。			